

行田市民大学

広報たより

第3号



2017(平29年)  
2月23日(木)  
行田市民大学・  
広報委員会

## NPO 法人行田市民大学活動センター について

活動センター設立準備委員 (企画渉外委員長) 渡部 政幸

年度も改まり、皆様の健康とご多幸を深くお喜び申し上げます。

さて、「市民大学活動センター」設立構想は、平成26年の「時田蔵校舎」建設から始まり、平成27年は「古代蓮の里指定管理者」応募、28年「観光案内所運営委託」応募等を経てこの度、平成28年6月28日の「NPO 法人行田市民大学活動センター（略称活動センター）設立総会」により動き始めました。

会員は市民大学運営委員並びに同窓会会員の有志により、正会員28名、協賛会員16名となり、初代理事長には今村武蔵氏が就任しています。

その後、「埼玉県へのNPO申請」「法務局への法人登記」を行い、平成28年10月17日に正式に法人として成立しています。

法人の設立目的は「行田市民及び団体に対し、まちづくり活動や、文化活動、情報発信などを行い、また市民及び団体は自ら「学んだことを日々の暮らしや地域社会に活かすことは素晴らしい」を実践し、地域の活性化に寄与すること」とし、法人事業は①「行田市民大学」運営事業、②「行田市民大学同窓会」支援事業、③まちづくり支援事業を行う、としています。

現在、担当役員を決め、来年度計画を作成し、29年度より本格的に活動を開始すべく準備を行っております。

事務所については、新たに借用・設立に向けて検討しています。皆様の中にもどこか良い事務所候補が有りましたら、活動センターまでお知らせください。

今後の活動センターとしては、①市民大学に係る事務局業務の実施、②各クラブで行っている「忍川の清掃」等を活動センターの全体行事にしていくことです。

牛歩の歩みですが、一歩ずつ前に進んで行くことが大切だと考えています。

今後も活動センターにご協力、ご支援をお願い致します。

### 【 行田夢まつり・行田、環境・食・農産物フェア 】 に参加

勤労感謝の日、産業文化会館前にて実施されました。朝からの冷たい風の中でしたが、子どもたちなど市民の皆さんが各ブースで楽しんでいました。市民大学の卒業生が蜂を飼育して採れた蜂蜜も、行田生まれとして味も芳醇で好評でした。

## ◇◇市民大学授業より◇◇

# 「地域の歴史と記憶を活かしたまちづくり」

### ～旧城下町における記憶の再構築～

平成29年1月26日(木)立正大学地理学科・片柳 勉 先生による講義がありました。行田のまちづくりと関連がある話なので興味深く聞くことができました。内容は、1. 旧城下町における地域の記憶とは何か、2. 旧城下町のまちづくりの事例—姫路市、赤穂市、行田市—、3. 現代での旧城下町のまちづくりでした。



#### 旧城下町における城・天守（天守閣）の役割

- ・明治維新後城は政治的・軍事的機能を失ったが、郷土の誇りと統合の象徴であった。
- ・現在に至るまで地域の象徴・住民の心の拠り所として存在している。
- ・城を見て何を想起するか・例えば会津若松城 → 戊辰戦争、白虎隊、大阪城 → 豊臣秀吉、大坂の陣、そこから今の築城ブームにつながった。

#### 旧城下町の記憶とまちづくり

- ・記憶は場所と結びついている。 → (城下町という地域の) 意味の記憶は社会共通
- ・城跡で遊び、城下町や城郭について学ぶ。 → 住民が意味の記憶を獲得
- ・旧城下町では、城下町の記憶を想起させる「まちづくり」を進めているところがある。こんな中で、行田にも忍城の面影を求め、城の記憶に繋がる施設づくりが進められた。

忍東照宮の周辺にある土塁で遊んだ記憶や昔の中央小学校周辺のヨシが繁茂した忍沼の様子、あるいは本丸グラウンドがあった時代の「三船十段」指導の柔道大会、素人による相撲、剣道大会など、城下町の誇りを掲げた行事もあった。これらの記憶も、忍城の面影を残そう、再現したいとの市民の意欲によって再現もされてきている。

## 「おめでとう 卒業後は同窓会にどうぞ！」

2学年の皆さんは、卒業が間近になってきました。今まで、教室や野外で学び、時にグループ研究を進める上で共に学んできた仲間とも、学生としてはこれで終了です。ただ、このまま卒業するだけでは残念に感じます。今までのグループの方々と、新しいサークル名を付けて活動しませんか。あるいは、卒業生のサークルも沢山ありますので、興味を広げて参加してみましよう。行田市民大学には同窓会があって、卒業生が参加して活動を続けています。行事は他に、記念講演会や旅行なども毎年計画を立てて実施しています。

[編集：広報委員会・田口修、茂木幸蔵、小堤敏正]

文責：田口